

売上案件管理システム(うりあど)

インストールマニュアル

1.03版

2009年3月15日

株式会社アドバンスドブレイン

制定・改版・履歴

| 版数 | 年月日 | 区分 | 内容・理由 | 承認 |
|------|------------|----|--------------------|----|
| 1.00 | 2006/03/01 | 初版 | | |
| 1.01 | 2006/04/25 | 改版 | | |
| 1.02 | 2009/03/06 | 改版 | RHEL ES 4 に対応 | |
| 1.03 | 2009/03/15 | 改版 | Fedora core 10 に対応 | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

(注意事項)

- 本書を無断で他に転載したり、複写したりしないようにお願いいたします。

Copyright 2009 Advanced Brain Corporation All Rights Reserved

Microsoft Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国、および、その他の国における商標です。

Intel,Celeron は米国 Intel Corporation の米国、および、その他の国における商標です。

売上案件管理システム(うりあど)インストールマニュアル

第1.02版
発行
2009年3月15日
株式会社アドバンスドブレイン
〒171-0014
東京都豊島区池袋2 - 61 - 15

インストールを開始する前に

この度は、売上案件管理システム(うりあど) (以下、「うりあど」と称します)をご利用いただきありがとうございます。

本書では、「うりあど」をインストールする手順を説明いたします。

対応OSはRedHat EnterpriseLinux ES 4 (以降 RHEL ES 4 と称します)、または、Fedora core 10です。

説明では、RHEL ES 4 の設定項目には **[RHEL ES 4]**、Fedora core 10の設定項目には **[Fedora core 10]** と表示しています。

なお、共通の設定項目に対しては両方表示しています。

インストール時間は、OSのインストールを含め約1～2時間程度です。

インストールを開始するには、「うりあど」のファイル **1**、OSインストール用CD、または、DVD、とインストールするPCを準備してください。

1 提供する「うりあど」ファイルは abcxxxxxxxxxxxxx.tar です。(実際はxxx部が版数名+プロダクト番号になります)
このファイルをあらかじめCD-R(またはCR-RW)に書き込んでおいてください。 **2**

2 OSをインストールする場合にFTPサーバやファイルサーバ、等を構築して、
ファイルをコピーすることも可能です。この場合はCD-R(またはCR-RW)に書き込む必要はありません。
ただし、本書ではCD - R (またはCR-RW)の使用を前提としておりますので、FTPサーバやファイルサーバ構築に関しての説明は省略いたします。

準備ができましたらインストールを開始しますので次に進んでください。

OSのインストール【RHEL ES 4】 【Fedora core 10】

OSのCDまたは、DVDから起動してインストールを開始してください。

インストール途中の設定変更や設定追加がある箇所について以下に説明します。

その他OSインストールで不明な箇所はOSのインストールマニュアル等を参照してください。

注意:ホスト名、ゲートウェイ、DNSはメール送信に必要ですので、必ず設定してください。

ホスト名設定【RHEL ES 4】 【Fedora core 10】

| | |
|------|-----------------------------------|
| ホスト名 | abc (別の名称でも構いませんが本書ではabcとして説明します) |
|------|-----------------------------------|

ネットワーク設定【RHEL ES 4】

| | |
|--------|-----------------------------------|
| DHCP | OFF |
| IPアドレス | 任意の値 |
| ネットマスク | 任意の値 |
| ホスト名 | abc (別の名称でも構いませんが本書ではabcとして説明します) |
| ゲートウェイ | 任意の値 |

ネットワーク設定 【Fedora core 10】

OSインストール完了後に設定します

ファイアウォール設定【RHEL ES 4】

| | |
|----------|----|
| ファイアウォール | なし |
| SELinux | 無効 |

ファイアウォール設定【Fedora core 10】

OSインストール完了後に設定します

パッケージインストールのデフォルト設定【RHEL ES 4】

インストールするソフトウェアパッケージをカスタマイズ

パッケージインストールのデフォルト設定【Fedora core 10】

今すぐカスタマイズする

パッケージグループの選択【RHEL ES 4】

黒文字はデフォルトで選択されています。

| | |
|-----|---|
| サーバ | サーバ設定ツール Webサーバ(詳細でphp-pgsql-PHP用のPostgreSQLデータベースモジュールを追加) メールサーバ PostgreSQLデータベース(詳細で全て選択) |
|-----|---|

パッケージグループの選択【Fedora core 10】

赤文字を追加してください。

| | |
|-----|--|
| サーバ | PostgreSQLデータベース Webサーバ(追加でphp-pgsql-PHP用のPostgreSQLデータベースモジュールを追加) サーバ設定ツール メールサーバ |
|-----|--|

OSインストール時に必要な設定は以上です。OSインストールが完了したら、次に進んでください。【RHEL ES 4】【Fedora core 10】

OSの各種ファイル設定【RHEL ES 4】

設定はGUIとコマンドラインの両方を使用します。

(linuxの知識がある方はこの方法でなくてもかまいません。直接ファイルを修正してサービスを再起動してください)

まずは、ユーザ「root」でログインして、X Window Systemのメニューの「アプリケーション」「システムツール」「GNOME端末」を開いてください。

コマンドライン入力はGNOME端末から入力するように説明します。

ファイル変更時のコマンドラインはviエディタを使用するように説明しますが、viエディタの操作説明は省略します。

準備ができましたら以下の設定を順番におこなってください。

phpの設定 (root権限にて実行してください) 【RHEL ES 4】

| | | |
|-----------------|--|---|
| php.ini ファイルの変更 | GNOME 端末から vi /etc/php.ini を実行します。 変更が完了したら保存します。 | register_globals = Off を register_globals = On に変更します。 |
| | | 変数処理用 magic_quotes_gpc = Off を magic_quotes_gpc = On に変更します。 文字化け対应用 |

apacheの設定 (root権限にて実行してください) 【RHEL ES 4】

| | | |
|--------------------|--|---|
| httpd.conf ファイルの変更 | GNOME 端末から vi /etc/httpd/conf/httpd.conf を実行します。 変更が完了したら保存します。 | AddDefaultCharset UTF-8 を #AddDefaultCharset UTF-8 に変更します。 |
| | | DocumentRoot "/var/www/html"の下に Alias /abc/ /var/abc/public_html/bin/を追加します。 |
| apache起動 | メニューの「アプリケーション」「システム設定」「サーバ設定」「サービス」を開きます。 | httpdをチェックして、「保存」をクリックして「開始」をクリックします。 httpdがない場合はパッケージグループで選択(詳細含む)が漏れていた可能性があります。 |

postgresSQLの設定 (root権限にて実行してください) 【RHEL ES 4】

| | | |
|---------------------|---|--|
| postgresql起動 | メニューの「アプリケーション」「システム設定」「サーバ設定」「サービス」を開きます。 | <p>postgresqlをチェックして、「保存」をクリックして「開始」をクリックします。</p> <p>postgresqlがない場合はパッケージグループで選択(詳細含む)が漏れている可能性があります。</p> |
| pg_hba.conf ファイルの変更 | GNOME 端末から vi /var/lib/pgsql/data/pg_hba.conf を実行します。 変更が完了したら保存します。 | <p>local all all ident sameuser を</p> <p>local all all trust に変更します。</p> |
| postgresql 再起動 | GNOME端末からservice postgresql restartを実行します。 | |

OSの各種ファイル設定【Fedora core 10】

設定はとコマンドラインを使用します。

まずは、作成したユーザでログインして、X Window System、メニューの「アプリケーション」「システムツール」「端末」を開いてください。

コマンドライン入力は端末から入力するように説明します。

ファイル変更時のコマンドラインはviエディタを使用するように説明しますが、viエディタの操作説明は省略します。

準備ができましたら以下の設定を順番におこなってください。

rootでログインできるようにする (Fedora core 10の場合、初期状態ではrootでログインできないため)

```
su -
xxxxxxx (rootのパスワード)
vi /etc/pam.d/gdm
#auth    required    pam_succeed_if.so user != root quiet (この行をコメントにします。)
```

ファイルの修正が完了したら現在のユーザをログアウトして、rootでログインしてください。

selinuxを無効にする

```
vi /etc/selinux/config
SELINUX=disabled (この行をdisabledにします。)
```

ネットワーク設定をDHCPでなく固定IPにする

```
/etc/rc.d/init.d/NetworkManager stop
chkconfig NetworkManager off
chkconfig --list NetworkManager (確認)
setup (コマンドにてネットワーク設定を行う)
    ネットワークの設定->Edit a device params->eth0->
```

DHCP使用を「*」->「」にする (スペースキーを使用)
静的IP、ネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力して「OK」 「Save」

edit DNS configuration->
Primary DNS を入力して「OK」 「Save」

「保存して終了」
「停止」 (setup画面を終了する)

```
vi /etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-eth0
```

ONBOOT=**yes** (yesに変更します)

```
/etc/rc.d/init.d/network restart  
ifconfig (確認)  
chkconfig network on  
chkconfig --list network (確認)
```

ファイアウォールの無効化

setup (コマンドにてファイアウォールを無効にする)
ファイアウォールの設定
ファイアウォール「*」有効->「」有効 にする (スペースキーを使用)
「OK」 「はい」
「停止」 (setup画面を終了する)

再起動して確認

rebootコマンドにて再起動
ifconfigコマンドにてネットワーク設定が正しいか確認する

phpの設定 (root権限にて実行してください) 【Fedora core 10】

| | | |
|-----------------|--|---|
| php.ini ファイルの変更 | 端末から vi /etc/php.ini を実行します。 変更が完了したら保存します。 | register_globals = Off を register_globals = On に変更します。 |
| | | 変数処理用 magic_quotes_gpc = Off を magic_quotes_gpc = On に変更します。 文字化け対応用 |

apacheの設定 (root権限にて実行してください) 【Fedora core 10】

| | | |
|--------------------|--|--|
| httpd.conf ファイルの変更 | 端末から vi /etc/httpd/conf/httpd.conf を実行します。 変更が完了したら保存します。 | AddDefaultCharset UTF-8 を #AddDefaultCharset UTF-8 に変更します。 |
| | | DocumentRoot "/var/www/html"の下に Alias /abc/ /var/abc/public_html/bin/を追加します。 |
| apache起動 | 端末からコマンドを入力します | chkconfig httpd on chkconfig --list httpd (確認) service httpd start httpdがない場合はパッケージグループで選択(詳細含む)が漏れていた可能性があります。 |

postgreSQLの設定 (root権限にて実行してください) 【Fedora core 10】

| | | |
|--------------|----------------|---|
| postgresql起動 | 端末からコマンドを入力します | <pre>chkconfig postgresql on chkconfig --list postgresql (確認) su - postgres initdb exit service postgresql start</pre> <p>postgresqlがない場合はパッケージグループで選択(詳細含む)が漏れている可能性があります。</p> |
|--------------|----------------|---|

DBの作成 (root権限にて実行してください) 【RHEL ES 4】 【Fedora core 10】

設定はコマンドラインを使用します。

まずは、X Window SystemのGNOMEが起動したら、メニューの「アプリケーション」「システムツール」「GNOME端末」を開いてください。

既にGNOME端末が開いている場合はそこを使用して構いません。

コマンドライン入力はGNOME端末から入力するように説明します。

準備ができましたら以下の設定を順番におこなってください。

| | |
|----------------------|---------------------------------------|
| postgresユーザへ移行 | <code>su - postgres</code> |
| 作業ディレクトリへ移動 | <code>cd /var/lib/pgsql</code> |
| DB作成 | <code>createdb -E SQLASCII abc</code> |
| postgresユーザからrootへ戻る | <code>exit</code> |

参考: DBを削除する場合は `dropdb abc` と入力してください。(DBを削除した場合は元に戻りませんので注意してください)

DBをバックアップする場合は、

postgresユーザで

```
cd /var/lib/pgsql
```

```
pg_dump -Fc -b abc > pg_dump_abc_2009/03/06.bk
```

DBをリストアする場合は、

postgresユーザで

```
cd /var/lib/pgsql
```

```
dropdb abc
```

```
createdb -E SQLASCII abc
```

```
pg_restore -c abc pg_dump_abc_2009/03/06.bk
```

「うりあど」ファイルのコピー (root権限にて実行してください) 【RHEL ES 4】 【Fedora core 10】

設定はコマンドラインを使用します。

まずは、X Window SystemのGNOMEが起動したら、メニューの「アプリケーション」「システムツール」「GNOME端末」を開いてください。

既にGNOME端末が開いている場合はそこを使用して構いません。

コマンドライン入力はGNOME端末から入力するように説明します。

準備ができましたら以下の設定を順番におこなってください。

| | |
|--|---|
| フォルダの作成と属性の変更します。 | <pre>mkdir /var/abc mkdir /var/abc/public.html cd /var/abc/public.html</pre> |
| 「うりあど」CD-Rをセットしてファイルをコピーします。 CD以外の場合の説明は省略します | <p>CDドライブに「うりあど」ファイルが入っているCDをセットします。</p> <pre>cp /media/cdrecorder/abc_xxx.tar .</pre> <p>(実際はxxx部が版数名+プロダクト番号になります)</p> |
| アーカイブファイルを復元 | <pre>tar xvpf abc_xxx.tar</pre> <p>(実際はxxx部が版数名+プロダクト番号になります) 注意: tar のオプションは必ず「xvpf エックス ブイ エフ ピー」を指定してください。</p> <p>/var/abc/public.html/bin というディレクトリができていれば完了です。</p> |
| CSV出力用ディレクトリ作成 | <pre>cd bin chmod 744 makecsvdir ./makecsvdir</pre> |
| 「うりあど」CD-Rの取り出し | <pre>umount /media/cdrecorder/</pre> <p>を実行してアンマウントして CDドライブから「うりあど」ファイルが入っているCDを取り出します。</p> |

動作確認【RHEL ES 4】 【Fedora core 10】

以上でインストールは完了です。

1. PCの再起動

2. <http://「うりあど」サーバアドレス/abc/> をアクセス 「うりあど」のトップ画面が表示していればOKです。
表示されない場合はwebサーバへのアクセスができないか、うりあどのファイルがコピーされていない可能性があります。
再度インストールした内容を確認してください。

3. 適当なIDとパスワードを入れてログインしてみる。 「***テーブルが作成されていません」と表示していればOKです。
表示されない場合はデータベースが作成されていないので再度インストールした内容を確認してください。

sslでアクセスする場合は<https://「うりあど」サーバアドレス/abc/>をアクセスしてください。

sslを使用する場合ファイアオールにてポート443をオープンしてください。

インストール完了後に行う作業【RHEL ES 4】 【Fedora core 10】

この後はマスタ登録入力を行ないますので、操作説明書「マスタ登録編」をご覧ください。